

談呆国憂

season 2 VOLUME 57

今月の憂国ト

「イスラム国」人質事件から、
映画『アンブロークン』、
キューバとアメリカ、
原油価格の下落まで。

紅茶がおいしい東京・押上の「軒家カフェiKKKA」で
アールグレイとウバ・クオリティの新茶を飲み、
2階の「甘真書店」で古本を手にとった田中・浅田両氏。
無念の結果に終わった「イスラム国」の人質事件に
世界のなかの日本のあり方を問い直した。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

浅田彰

田中康夫

「イスラム国」人質事件、日本の対応は？

浅田 「イスラム国」(ISIL)ないしISISを名乗る過激派がシリアで湯川遥菜(自称「民間軍事会社」主宰)と後藤健二(フリーランス・ジャーナリスト)を拉致し殺害した。人質の姿をネットで晒し者にしたうえで斬首するなんて、野蛮にもほどがある。他方、日本政府の対応も問題だね。日本は中東の紛争に関与したことがない平和的な国で、中東での評判がよかつたんだけど、イラク戦争で小泉純一郎首相があらさまにアメリカ側についてたことでそのイメージは大きく傷ついた。今回も安倍晋三首相が「ISILと闘う周辺各国」への援助をエジプトで表明したわけで、いかに非軍事的な人道援助とはいえ、アメリカを中心とする対テロ有志連合軍に加わつたと見られても仕方がないし、人質事件についても最初、こともあろうにイスラエルで「国際社会はテロに屈してはならない」と言った、これじゃ本気で人質を救出する意志があつたのか疑われても仕方ないよ。

田中 「これから先、日本人には指一本触れさせない」発言も含め、痛感するのは「言葉の軽さ」だ。本来は言葉こそが外交であり政治なのね。20年目の阪神・淡路大震災追悼式と同時に遠く離れたカイロで「ISILと闘う周辺各国に、総額で2億ドル程度、支援をお約束します」と演説したけど、実は昨年9月23日にもニューヨークで「空爆でイスラム国壊滅を」と発言している。堀潤が司会のMXテレビ「モニタリングCROSS」で僕が絵解きした内容の文字起こしを僕のサイトにアップしているけど、すでに9月時点で日本は掃討作

戦に進んで参加する「十字軍の一員」だと認識されてしまったんだ。

さらに遡れば日本は昨年5月12日、サイバー兵器、無人飛行機(UAV)等の高度なノウハウ技術をイスラエルと共有する「準同盟国関係」へと踏み出す「共同声明」に、来日したイスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相と署名している。シオニスト運動を象徴するダビデの星で知られるイスラエル国旗と日の丸の間で、「2億ドルは避難民が最も必要としている、命を繋ぐための支援だ」と会見する前から、ナイフと悪夢の観念連語で頭韻を踏んで恐怖を与える詩的凝縮性を持った殺害予告ビデオ「さもなければ、このナイフが悪夢になるだろう (Otherwise this knife will become your nightmare)」に至る要素はいくつもあつた。無論、テロリズムも拉致も殺害も許されざることだけど、無辜の民を巻き添えにする戦争も蛮行にほかならない。この原点を冷静に捉えないと。

浅田 そもそも9・11以来の「対テロ戦争」って呼び方が間違い。戦争は国家間でやるもの。いかに大規模とはいえテロは犯罪なんだから警察で取り締まるべきなんだ。オウム真理教だって勝手に省庁をつくつた。「イスラム国」はあれを巨大にしたようなもの。それと戦争するなんて、相手を国と認めるようなものだよ。ついでに言えば、オウム真理教が仏教と違うように、「イスラム国」は本来のイスラム教を代表するものじゃない。西洋社会に溶け込めない若者たちが聖戦のイメージにつられて集まってく



る、それとイラクのフセイン政権の残党なんかがつつただけ。

田中 「イスラム国」が居座っているのは、国家としてのイラクとシリアが掌握できていない辺境。そもそも国境線が直線なもの、フランスとイギリスが地図の上に人為的に引いたから。そして1978年に始まった旧・ソビエト連邦のアフガニスタン侵攻に對抗すべくアメリカ中央情報局CIAとパキスタン、サウジアラビアがムジャヒディーンと呼ばれるイスラム義勇軍を育成したのが、サウジの富豪だったビン・ラーデインが率いたアルカイダの発端だからね。「グレムリン」を生み出した製造物責任は誰なのかという議論でもある。2001年の「9・11」以降、アルカイダをはじめとする過激組織がテロを起こす度に、それを口実に「公共事業」として欧米「有志連合」が中東に軍事介入する「支え合い」も存在してきた。

そのアルカイダから分派した「イスラム国」が厄介なのは、浅田さんも指摘したように指導者のアブ・バクル・アル・バグダディに代表される「聖戦主義」人脈と、「世俗主義」的な旧・イラク軍やバース党関係者が合体している点。共にスンニ派の彼らは2003年のイラク戦争で結び付いた。両者の幹部がイラク南部バスラ近郊の米軍拘置施設「キャンプ・ブッカ」に収容されて、イラクとシリアのシリア派系政権への敵意と米国への反発で意気投合する。実は全ムスリムの9割はスンニ派。国民の大半がシリア派なのはイラクのみだから、イラクとシリア両

国に跨る「イスラム国」は、同じスンニ派のサウジアラビアに代表される親欧米政権には反発する一方、少数派のシリア派が権力を握る国内政治にも不満が大きい。特にサダム・フセイン体制崩壊後のイラクではテロ掃討作戦の名の下に米軍とイラク治安部隊がスンニ派というだけで一般人を拷問した事例も少なくない。約600万人とも言われる「イスラム国」内の人々は「敵の敵は味方」として首をすくめ、逃げ場のない不幸な状況だ。

浅田 アメリカが石油国有化を目指したイランのモサデク政権を潰し、パーレビ王政をもつてきたら、それへの不満からイスラム革命が起こつた。そのイランに対し、イラクのサダム・フセイン大統領に肩入れしたかと思うと、最後は増長したサダムを潰した。サダムはただの独裁者だったけど、彼のバース党は本来はアラブ社会主義を唱えてたわけで、そういう左翼からの改革の展望が失われた結果「イスラム国」のような原理主義集団が出てきた。マルクスのように茶番としての反復だね。

田中 フランスやロシアにも伸張したナチスドイツの被害者であるユダヤ人が我が国イスラエルが、その存在を保つためにパレスチナやシリアを空爆し続けねばならぬ新たな「悲劇」とも似ている。「国家」として存在し続けるには戦争し続けるしかない、とテロリズムに突っ走る「イスラム国」の視野狭窄な「悲劇」を見ているとね。

全世界人口72億人余りの約22%を占めるイスラム教徒は、今やカトリック信者よりも多い約16億人。アジアでもインドネシア、パキスタン、バングラデシュはイスラム教徒が大半だし、「やられたらやり返せ」と思

われがち「ハムラビ法典」も実は、倍返しのような報復合戦を防ぐ、欧米の近代法学の罪刑法定主義の先駆けのような理念だと認識しておく必要がある。

今回、改めて思い出したのは教科書にも載っている、ジョルジュ・ビゴーの風刺画だよ。でぶつちのイギリス人と背高のつばのアメリカ人が小柄な日本兵を、ロシア人に差し出している絵柄のね。朝鮮半島へのロシア進出を恐れたイギリスが日本をけしかけ、裏からアメリカが金を出したからこそ日露戦争の逆転勝利があったわけで、100年経った今回も日本は使い走りとしての「名誉白人」の道を行んでるんだ。

浅田 安倍の積極的平和主義ってのも米軍によりよく協力するためのもの。ちなみに、安倍は人質事件なんかで邦人救出のため自衛隊を派遣できるようにするかのようなことを言っていたけど、実際に救出なんてできなかったの。

田中 アメリカですら失敗続きの救出作戦を日本ができるはずもないと冷徹に捉えるべきでしょ。ましてや3日72時間の期限を「イスラム国」から定められたのに、70時間も経過してから国家安全保障会議NSCの初回会合を開く日本なんだから(涙)。前々から我々が提言しているように自衛隊を改組して、国内外の天変地異の現場に世界中で一番最初に到着する21世紀のサンダーバード隊を創設すべきでしょ。

浅田 そう、軍よりは消防・救急だね。テロという犯罪に対しても、必要なのは警察なんだし。いずれにせよ、軍を出さずともあるいはそれゆえにこそ、日本が世界に貢献できることはいくらでもあるわけだ。

田中 ところが共同通信社が行った世論調査では、人質事件に対する安倍政権の対応

を「評価する」ある程度評価する」と答えた国民が60%を超えた。「日本国の民度」改め「日本国民の眠度」は笑ってすませられないレベルにまで転落している。日本共産党の池内沙織が「こんなにも許せない」と心の底から思った政権はない。国の内外で命を軽んじ続ける安倍政権。安倍政権の存続こそ、言語道断」とツイートするや委員長

の志位和夫が「政府が全力を挙げて取り組んでいる最中だ。今あのような形で発言することは不適切だ」と批判し、削除させた。確かに彼女の文章はあまりにもラフだった。だから修正させますというならともかく、公人が一度書いたものを自粛せよと消去させるなんて、共産党は自民党の補完勢力だとネット住民に揶揄されるのも当然。

加えて、「その罪を償わせる」発言も記者団への2分間の「ぶら下がり」だったのが故に、Revengeに復讐に代表される扇情的な惹句と共に海外で独り歩きしてしまった。

「deplorable」は「嘆かましい」を用いて「彼らの嘆かましい行為に責任を取らせるべく国際社会と協力していく」と意識ならぬ「穏便な異議」が外務省のサイトにアップされたのは数時間後。邦文・英文で記され



田中康夫

たなか・やすお ●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。

た文書を配布したうえで、首相緊急会見を開催し、読み上げた後に質疑応答していたら、不幸な独り歩きは防げていたにもかかわらず。

「積極的平和主義の戦争放棄憲法を有する日本は、積極的戦争主義へ」と踏み出した」と「ニューヨーク・タイムズ」やBBCと「英国放送協会に報じられて既成事実化してしまった責任を外務省と内閣府は負うべき。プロトコル」外交儀礼の文法が分かっている。ない官僚は逝ってよしだよ、マジで。

『アンブロークン』が非公開、表現の自由は大丈夫？

田中 それにしても、十字軍は正義の遠征だったと勘違いしている日本人が少なくない。テロも拉致も虐殺も、そして戦争も許されざる悪行で、十字軍は殺戮者でもあるわけだもの。

「お前たちは自ら進んで十字軍への参加を志願した」と日本に宣告した「イスラム国」の主張は残念ながら、その限りにおいては間違っていないんだ(涙)。

浅田 十字軍は、聖地を奪還すると称してイスラム支配下のエルサレムあたりに攻め

公人が一度書いたものを自粛せよと消去させるなんて、共産党は自民党の補完勢力だとネット住民に揶揄されるのも当然。(田中)

込み、殺戮のかぎりを尽くした。キリスト教も狂信的・暴力的だった時代があるわけで、それを忘れてイスラム教を攻撃するのは間違い。「イスラム国」はイスラム教徒の代表ではまったくないわけだし。

田中 人種差別に抗議するために1961年、サウスカロライナ州で白人専用の椅子に座って逮捕された9人の黒人学生が罰金刑ではなく禁固刑を選んだ事件が半世紀も経って再審が開かれ、当時有罪を言い渡した判事の甥が判事となって「判決無効」を言い渡した。

さらには、1862年の奴隷解放宣言後も、1877年から1950年までにフロリダ、ケンタッキー、テキサス等の南部12州では3959人の黒人がリンチで殺害され、その2割の犠牲者は数百人、数千人の白人が観客として参加する公開処刑だったと近頃発表された。カソリックの腐敗を正すとして生まれたはずのプロテスタント国家アメリカも、そうした建前と本音が続いていた。

大きな声で正義を語るような人にはどこかしら、いかがわしさがある。その文脈で言う「権力」を揶揄していた『シャルリー・エブド』という存在を新たな権威として祭り上げる、権力にとって極めて都合的な大政翼賛の動きが、今回のフランスでのデモでもあったと。

浅田 前回言ったように『シャルリー』は便所の落書き、それでも断固擁護しなきゃいけない。それを、『シャルリー』襲撃事件の死者を対テロ戦争の殉教者に祭り上げるのはおかしいって、同誌の生き残りも言っていたよ。

他方、「ハイル・ヒトラー」と「ファック・ユー」を組み合わせたようなジェスチャー



ヤーを十八番にしているデュードネ・バラ。バラって芸人は、それが反ユダヤ主義的だ。ってことで何度も事実上の検閲をくらっているんだけど、今回も多くのフランス国民が「私はシャルリー」って言ったのに対し「俺はシャルリー・クリバリのような気分だ」(クリバリは「シャルリー」襲撃事件と同時にユダヤ系食品店に立てこもって人質4人を殺害した容疑者)とフェイスブックに書いただけで警察の取り調べを受けた。イスラム教徒に対する過激な風刺はよくても、ユダヤ人に対するそれは許されないってのは、あからさまな二重基準だよ。

ちなみに、「便所の落書き」も擁護すべきだったことでは、金正恩暗殺計画を描くセス・ローゲン監督のギャグ映画「インタヴュー」も同じ。怒った北朝鮮によるとされるサイバー攻撃を受けてソニー・ピクチャーズが公開をキャンセルしたら、バラク・オバマ大統領に批判されて、急ぎ公開に転じた、あのドタバタは醜態だった。ただ日本では劇場公開の予定はない。それで言えば、日本軍の捕虜虐待を描くアンジェリーナ・ジョリー監督の『アンブロークン』も、右翼の反発を恐れてか日本では劇場公開の予定がないらしい。大島渚監督の『戦場のメリークリスマス』の坂本龍一を意識して、日本人ミュージシャン・MIYAVIが収容所で主人公をいたぶるサディストを演じてるんだけど、同じ日本軍の捕虜虐待を描く『戦メリ』だって昔は堂々と公開したのに。

オバマとしても、キューバと国交回復し、グアンタナモ基地を返還するか新たに租借するかできれば、レガシーになるからね。(浅田)

オリンピック選手で、長野オリンピックでは80歳で聖火ランナーも務めた。実際問題、米国防総省のデータによれば、ドイツ軍の収容所での米国人捕虜の死亡率は1%。旧・日本軍の収容所では4割近い。彼に暴行を加えた日本人伍長もアメリカCBSテレビの取材に、捕虜虐待を認めている。帰国後にPTSDの心的外傷後ストレス障害に苦しんだザンペリーニ氏は、伝道師の教で「憎しみを「赦し」に昇華させ、収容所があった新潟県上越市を聖火を持って走る。恩讐のかなた」の物語として日米で共有すべき作品なのに、屈辱だと叫ぶ日本は、まさにアロガントの傲慢でインフレラントの堪え性のないお子ちゃま国家に見られているんだ。

キューバとアメリカが国交正常化へ。

浅田 キューバとアメリカが国交正常化に向けて動き始めている。そもそもアメリカの敵視政策が初代国家評議会議長のフィデル・カストロをソ連側に押しやったわけだし、冷戦終結後もっと早く和解してもよかつただけだね。



田中 カストロはエルネスト・チェ・ゲバラは青すぎるかと放逐した男。その意味では非常に世俗的な政治家。後継者の弟のラウル・カストロも同様なのかな。石油価格が下落し、ウゴ・チャベス亡き後のベネズエラの弱体が見え始める状況でアメリカと修復しておこうという戦略。善くも悪くもしたたかだ。一国二制度という建前の下で香港やマカオが観光客を受け入れて中国が外貨を稼ぐのを真似ようとしているのかも。アメリカからの観光客を期待してね。

浅田 オバマとしても、キューバと国交回復し、グアンタナモ基地を返還するか新たに租借するかできれば、レガシーになるからね。そもそもオバマは、ブッシュ・ジュニア政権が対テロ戦争で捕らえた容疑者を裁判もなくグアンタナモ基地に拘留したのを批判してたのに、政権に就いて6年目にしてまだその閉鎖を課題として掲げなきゃならないとは。バグダディを二度にわたって拘束しておきながら(ただしグアンタナモ基地じゃなくキャンプ・ブッカに)、イラク政府に引き渡したら勝手に釈放されてしまい、今ではその彼が「イスラム国」の指導者になってるっていうようなケースがあつて、難しいのはわかるけどね。それと同時に、無人機を駆使して国外で裁判もなしにテロリストを殺しちゃうってのも、明らかに非合法。ところがオバマ政権はブッシュ・ジュニア政権以上にこの手法を多用してる。「イスラム国」への空爆についてもその延長線上にあるんで、それをやっている対テロ有志連合軍に日本も入ったかのように思われるのはよくない。

他方、オバマ政権はサウジアラビアと結託して原油価格を下げてる。ロシアやイランやベネズエラを弱体化させようって意図が見え見え。そもそもサウジはロシアやイランよりずっとひどい圧政国家なのに、アメリカは重要な同盟国として扱ってきた。そのアメリカに貸しをつくつくってこともあるかな。

田中 国王が亡くなってサウジ版お家騒動も起きかねない。真偽のほどはともかく「9・11」テロのザカリアス・ムサウィ受刑者が「サウジ王族がアルカイダ支援」と衝撃の証言と、最近もCNNや「ニューヨーク・タイムズ」で報じられた。

浅田 初代国王の子どもが89人もいるってんでしょ(笑)。今度第7代国王になったサルマンもその一人。第3世代をはじめて王位継承権者に指名して話題になってる。採める余地はあるよね。

ともかく原油価格の下落は、日本を含む石油消費国の経済にとって追い風になってる。ただ、それによってシェール・オイルなんかの開発も遅れると同時に、再生可能エネルギーなんかの開発も普及も遅れるところが悩ましい。原油価格が人為的に下げられてることで、石油ガブ飲み型の生産様式に逆行しつつあるとすれば、大問題だと思ふね。

浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。83年に出版されたデビュー作『構造と力―記号論を超えて』はベストセラーに。

